

国指定史跡

白河関跡

白河
関跡



歌枕からおくの細道へ

関としての機能が失われた後、白河関は、歌枕(和歌の名所)として歌人・俳人の憧れの地となりました。西行法師や一遍上人、飯尾宗祇など、そうそうたる歌人たちが歌心をかきたてられました。

江戸時代になり、松尾芭蕉は、生涯「旅を栖か」とし、白河関を越える旅に思いをはせました。元禄2年(1689)3月27日(新暦5月16日)、あこがれを抱いていたみちのくへ向けて、弟子の河合曾良とともに江戸を旅立ちます。その旅の紀行文が、有名な『おくの細道』です。4月20日(新暦6月7日)に白河の地にたどり着いた芭蕉は「白河の関にかかりて、旅ごころ定まりぬ」と、みちのくの第一歩を踏み出した感動を込めて記しています。

幌掛の楓



みなもとのあしといえ あべさだとう
源義家が、安倍貞任攻め(前九年の役)のために白河関を通過する際、社前の楓に幌をかけて休息したとの伝説があります。現在の楓は植え替えたものです。

旗立の桜



みなもとのよしつね
源義経が平家討伐のため平泉を出発し、社前に戦勝祈願をした際、この桜に源氏の旗を立てたとの伝説があります。

矢立の松

源平合戦の際、源義経が平家討伐に向かうとき、戦勝を占うために社前の松に弓矢を射立てたとの伝説があります。現在は、その根株を残すのみとなっています。

みちのくの玄関口「白河関」

奥州三古関の一つに数えられる白河関は、奈良時代から平安時代頃に機能していた陸奥国と下野国の国境に設けられた関で、人や物資の往来を取り締まる検問所の機能を果たしていたと考えられます。10世紀に入り、律令制(法律による国の運営)の衰退とともに関としての機能は失われていきました。

その後、白河関の場所は不明になっていましたが、白河藩主松平定信は、絵画や記録、伝承から考証を行い、寛政12年(1800)、現在地が白河関跡であると断定し「古関蹟」の碑を建てました。



昭和34年(1959)から行われた発掘調査で、竪穴住居跡や鍛冶工房跡、掘立柱建物跡などが確認されたほか、8・9世紀の土師器や須恵器、鉄製品が出土しました。この結果、現在地が白河関跡の条件にかなう点が多いことから、同41年(1966)に国史跡に指定されました。

白河関ゆかりの和歌・句

西行法師 白河の 関路の桜 咲きにけり
東より来る 人の稀なる

一遍上人 行く人を 弥陀の誓ひに 漏らさじと
名をこそとむれ 白河の関

飯尾宗祇 袖にみな 時雨を関の 山路かな

松尾芭蕉 風流の 初やおくの 田植うた

曾 良 卯の花を かざしに関の 晴れ着かな

従二位の杉



鎌倉時代初期の歌人で「新古今和歌集」の撰者の一人である藤原家隆(従二位宮内卿)が、手植えし奉納したと伝えられる杉の巨木です。樹齢は約800年と推定されています。

中世館跡の土塁・空堀



丘陵上に現存する土塁や空堀、発掘調査で丘陵の全体から確認された櫓列跡や門跡は、中世(鎌倉～室町時代)の館跡に伴う遺構と考えられます。土塁と空堀に囲まれた範囲が主郭と想定されています。



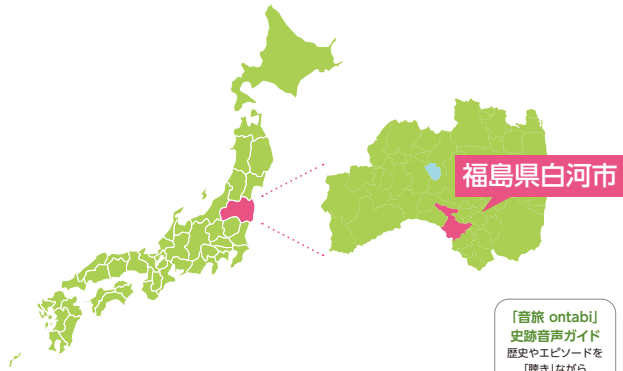
交通アクセス

車: 東北自動車道白河ICから20分
白河中央スマートIC(ETC専用)から20分

鉄道: JR東北新幹線・東北本線
新白河駅から白河駅前経由
バス40分「白河の関」下車

駐車場: 無料20台

※混雑時・大型バスは
白河関の森公園駐車を
ご利用ください
(無料150台)



白河市産業部観光課

〒961-8602 福島県白河市八幡小路7番地1
TEL.0248-28-5526 FAX.0248-24-1844
✉ kanko@city.shirakawa.fukushima.jp

「音旅 ontabi」
史跡音声ガイド
歴史やエピソードを
「聴き」ながら
歩いてみませんか?



135年、白河国造命と天太玉命を奉祀し、成務天皇の勅命により国鎮座しました。元和元年(1615)伊達政宗が社殿を改築奉納したといわれ、本殿の棟梁に伊達家の九曜星・縦三引きの紋が刻まれています。勝負開運・縁結び・安産・家内安全などの御利益があります。

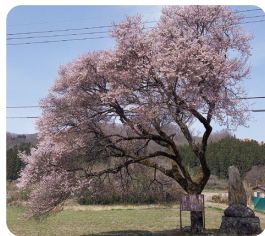


白河関を詠んだ代表的な和歌三首を刻んでいます。

平兼盛 便りあらば いかで都へ告げやらむ
今日白河の関は越えぬと(『拾遺和歌集』)

能因法師 のういん ほうし 都をば 霞とともに立ちしかど
秋風ぞふく白河の関(『後拾遺和歌集』)

かじわらの かげすえ
梶原景季 秋風に 草木の露をはらわせて
君が越ゆれば関守もなし(『吾妻鏡』)

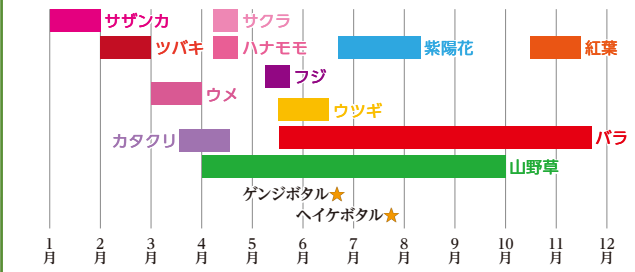


治承4年(1180)信太庄司(現在の福島市)の
佐藤元治 元治 信太 庄司 信太 庄司
 佐藤元治が源義経に従う息子の継信・忠信を
 この場所まで見送って義経への忠義を説き、
 桜の杖を突き立てました。この杖が、討ち死に
 した兄弟の忠義を感じて桜の大樹になったと
 の伝説があります。



昭和41年にこの地が国史跡に指定されたことを記念して建てられました。「奥の細道」紀行文の白河関の一節が、俳人加藤楸邨の筆で刻まれています。

創業以来変わらず、自家製にこだわった手打ち麺、鶏ガラ100%のスープや調味料から作り出される一杯は、もちもちのちぢれ麺との相性抜群です。



園内には小川が流れ、大型遊具や物産コーナー、相撲道場などがあり、のどかな風景に包まれながらゆったりとした時間を過ごせます。

2月上旬～3月上旬 ひな人形
4月上旬～5月上旬 五月人形

お土産は
こちら

白河銘菓や特産品のほか、ここでしか手に入らない白河関跡のオリジナルグッズなどを取り揃えています。

ほたるの里

卵の花園

芝生広場

水車小屋

わんぱく広場
(大型遊具)

イベント情報

- かたくりまつり(4月上旬)
- 端午の節句(5月上旬)
- 収穫祭・そばまつり(10月下旬)
- ひな祭り(3月上旬)

御朱印は
こちら

●白河神社社務所

至 棚倉町

至白河市

桜のし戻司庄

至 栃木県那須町